

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	スタートアップ三佐		
○保護者評価実施期間	令和7年12月5日		～ 令和7年12月19日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	令和7年12月5日		～ 令和7年12月19日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・児童全体での集団活動の提供の他、専門的支援を実施できる職員(5年以上経験の保育士)がおり、個別の課題に応じて、個別・小集団での専門的支援を実施している。	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後等デイサービス計画から個別で対応する項目を抽出し、利用者にあった具体的な支援(SSTや認知機能トレーニング等)を実施している。 ・朝礼や会議などで実施予定や実施状況等を伝える時間を設け、他の職員との情報共有を行い、実施しやすい環境(スタッフの配置や部屋の調整等)を整えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的支援の該当者の増加や課題が多岐に亘るため、必要性が高い対象者を選出して絞っていく。 ・専門的支援で行ったことを利用者が活かせるよう、担当職員だけでなく、他の職員も本や調べ物などをして内容を深め、日常の活動に活用できるようにしていく。
2	・保護者、職員、相談支援専門員間で、LINEのグループ機能を活用し、利用状況、連絡事項等の共有を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の様子や連絡事項を口頭だけでなくLINEを使って動画等も共有し、可能な限り利用状況のイメージがつきやすいよう情報を共有している。 ・普段の様子を直接見る機会の少ない相談支援専門員もグループに参加してもらうことで、利用者に関する情報や保護者とのやりとりを知ってもらう機会を作っている。 ・保護者会で、保護者からも家庭での様子等お知らせいただくよう伝えた結果、日常生活やイベント参加等の様子をLINEで送っていただくことが増え、双方で情報共有できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き情報共有を行い、相談支援専門員との連絡体制の充実を図る。 ・必要に応じて動画に状況説明等のコメントを付け加える。
3	・年間通して内部研修を実施しており、支援の質担保・向上のための取り組みを欠かさずに行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・秘密保持、虐待防止、意思決定支援、感染症、事故苦情等相談対応、非常災害対応、感染症BCP、非常災害BCP等の事業所運営の基本となる研修の他、その時々職員の業務課題に応じ福祉専門職としての質を高めるための研修を実施している。 ・研修担当をローテーション制にし、担当者それぞれが工夫して研修を実施しており、マンネリ化することなく内容が充実するよう努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の業務課題に応じて福祉専門職としての質を高めるための研修を検討していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・事業所単独での活動が多く、地域とのかかわりや交流が少ない。	<ul style="list-style-type: none"> ・商業地域のイベントなどは出向く機会が土日が多く、営業日でないことが多い。 ・職員が他業務に追われ、地域との交流に関する計画の優先順位が下がり、実施までに至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長期休暇を利用し地域との関わりや交流が出来るようイベント情報の収集を行う。 ・事前アンケートを実施し、参加の意向を確認する ・事業所の集団活動の中でルールを理解を深め、遊びの知識を増やしていく。 ・交流可能な団体を探す。
2	・放課後等デイサービス事業、障害福祉サービスの経験が、当事業所のみという職員が多く、他事業所や他サービスの取り組みについて情報不足である。	<ul style="list-style-type: none"> ・Off-JTでの学習を促しているが、机上での説明のため実際のイメージが湧きづらい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他事業所見学の機会を設ける。 ・外部研修の機会に他事業所との交流を図り、他の取り組みを知る。
3	・通所している子どもの性別、障がい等に偏り(男児、普通小学校低学年、発達障がいの子どもの割合が大半)があり、対応の経験値も偏りが出ている。	<ul style="list-style-type: none"> ・優先順位的に現行利用者への支援をイメージしたOff-JTを実施しており、またOJTも現行利用者に対して行われるため、他の障害特性等に関する情報を得る機会が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・肢体不自由や医療的ケア、強度行動障害、思春期等、特別に配慮やスキルを求められる支援について外部研修等を活用し、情報や知識、スキル等を身につけていく。 ・案内があった研修以外にも事業所で研修の情報を収集し、積極的に参加する。